

令和3（2021）年度
事業計画書

（令和3（2021）年4月1日から令和4（2022）年3月31日まで）

目次

本年度事業計画について.....	1
I. RISSHO VISION 150 立正大学学園第1次中期計画	2
II. 重点施策.....	3
1. 英語教育.....	3
2. オンライン授業の検証と教育法開発.....	3
3. データサイエンス学部スタート.....	3
4. 新生活様式下の学生生活サポート.....	3
5. 長期計画策定.....	3
6. データサイエンスセンターによる価値創造の推進.....	4
III. 主たる事業.....	5
<大学>.....	5
教育改革の推進.....	5
学修支援の充実.....	6
その他の教育関連事業.....	7
研究推進.....	7
キャリア支援の充実.....	8
学生生活支援の充実.....	8
国際交流支援の充実.....	9
産官学連携事業の推進.....	9
地域・社会貢献活動の拡充.....	9
<付属中高>.....	10
教育.....	10
生徒支援.....	11
生徒募集.....	11
地域・保護者連携.....	11
<基盤>.....	12
キャンパスマスタープランの推進.....	12
組織運営.....	12
内部質保証.....	12
経営.....	13
財務.....	14



石橋港山先生之像

石橋港山(1896-1978)は、明治から昭和にかけての立正大学を創設した人物として知られる。立正大学を創設した功績により、立正大学に「石橋港山先生像」が設置された。石橋先生は、立正大学の創設に尽力し、立正大学の発展に貢献した。石橋先生の功績を後世に伝えるため、立正大学に「石橋港山先生像」が設置された。石橋先生の功績を後世に伝えるため、立正大学に「石橋港山先生像」が設置された。

建学の精神

一、真実を求め至誠を捧げよう

一、正義を尊び邪悪を除こう

一、和平を願い人類に尽そう

本年度事業計画について

本学では「真実を求め人類社会の和平の実現を念願する立正精神に基づく教育を行い、有能な人材を育成する」という寄附行為に謳われた本学園の目的を遂行し、国内外の社会の発展に寄与すべき教育・研究活動とその体制を整備して未来像を描く事が使命です。特に本学で「社会貢献」を重視した事は、「立正安国論」に示された「立正精神」を継承し、正しきを立てて国や社会の平安と人びとの安寧実現を目指す事に通じてまいります。

令和2(2020)年度は、まさに地球規模で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、経済活動の停滞、医療機関の逼迫など様々な問題や課題が浮き彫りとなりました。本学園では、学生・教職員の安全・安心を最重要として、オンライン授業の採用やそれに伴う修学支援、学内ネットワークの環境整備を行い、学生のみなさまの学修の継続に努めてまいりました。

令和3(2021)年度はこうした非常時の経験を活かし、引き続き感染防止対策を講じるとともに、多様な授業支援や環境整備を推し進め、新たな教育の在り方を模索してまいります。また「RISSHO VISION 150」に基づき「社会貢献」・「教育」・「研究」・「運営基盤整備」・「附属中学校・高等学校」など各事業を着実に遂行し、『モラリスト×エキスパート』の育成はもとより、教育研究成果や学内資源を活用した様々な活動を通して、その理想の具現化を目指してまいります。

そして令和4(2022)年には開校150周年を迎えます。本年度は2月に竣工した品川キャンパス新校舎の供用開始、熊谷キャンパスにおけるデータサイエンス学部の開設と記念事業が具体化してまいります。今後とも教職員の皆さんとともに教育改革の推進に向けて異体同心で取り組みたいと思っています。どうかご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人立正大学学園 理事長 望月 兼雄

I. RISSHO VISION 150 立正大学学園第1次中期計画

立正大学学園は、令和4（2022）年に控える立正大学開校150周年に向けて「RISSHO VISION 150」と題した第1次中期計画を策定し、平成30（2018）年度から5ヵ年を事業期間として取り組んでいます。各年度の事業計画はこれに基づき、検討・策定しています。

変わる、立正 — 未来への礎

RISSHO 

.....

VISION 150

学園の目的

一. 真実を求め至誠を捧げよう
一. 正義を尊び邪悪を除こう
一. 平和を願い人類に尽そう



真実を求め人類社会の平和の実現を
念願する立正精神に基づく教育を行い、
有能な人材を育成する

持続可能でより良い豊かな
平和社会を築くための
一個の重心・芯となるべ
き人材として、「モラリス
ト×エキスパート」を養
成する（大学）

MISSION（立正大学学園の使命・存在理由）

校名は日蓮聖人の『立正安国論』に由来、その要諦は「『正しき』を立て（＝立正）、
国や社会、人々の安寧・平和の実現のために本気を尽くす（＝安国）」というこ
とにあり、これが本学の社会的ミッションであり、立正精神です。



学校法人立正大学学園の方向性

基本的方向性

1. 社会化：ニーズを捉え、社会的に有益でかつ注目・評価される方向の追求
2. 特色化：キラリと光る個性（立正ならではの、らしさ）の発揮
3. 組織化：社会化、特色化を実現する組織体制や財政基盤、仕組みの構築

社会貢献	教育	研究	運営・ 基盤整備	附属中学・ 高等学校
社会的ミッションを第一に置いた、教育研究・組織運営における社会との関わり合いの内化・実践化	出口・学修成果を強く意識した「モラリスト×エキスパート」教育を中心とした、教育プログラムの全学的・組織的マネジメント・推進体制の確立	人間・社会・地球（環境）を有機的につなぎ、異種の融合によるイノベーションをもたらすための、研究の高度化・組織化	社会化・特色化を進めるための実効的なガバナンス体制・研修制度および財務基盤の構築ならびに施設・設備の整備	「行学二道」の教育を柱とした「道徳教育」「人間力育成」の推進 21世紀を担う「グローバル教育」を中心とした教育プログラムの確立

Ⅱ.重点施策

以下の 6 つを本年度重点施策として掲げ、ビジョン実現に向けた確実なステップアップを図ります。

1.英語教育

大学における英語教育には学生の英語力を正確に把握した上での実践的な英語力の向上が求められています。本学ではこれまで1・2年次を対象にTOEICテストを実施し、英語力の検証をしてきましたが、本年度は、この検証を継続すると共に、特に低得点の学生に対するサポート体制を拡充し、実践的な英語力を向上するための環境整備を行っていきます。

2.オンライン授業の検証と教育法開発

付属中高においては、一人一台の端末整備を進め、ICT機器を活用した対面授業と家庭学習の充実およびオンライン授業の質の向上を目指します。大学においては、昨年度緊急対策的に実施したオンライン授業の経験を踏まえ、問題点の改善に努めるとともに、オンライン授業の長所を積極的に生かし、柔軟に活用するための基盤づくりと運用を目指します。

3.データサイエンス学部スタート

本年度新たに誕生したデータサイエンス学部を適切に運用し、カリキュラムおよびその他の取り組みを通して、デジタル化社会の新しい在り方に貢献できる人材を育成します。そのために、本年度は本学中期計画と整合性を図りながら、各種の教育・研究基盤構築・整備を進めていきます。また、連携企業・組織との長期的な関係を育てるべく、人材ネットワークの構築も行っていきます。

4.新生活様式下の学生生活サポート

大学では、窓口業務において積極的にオンライン化を進め、学生サポートの利便性を高めます。「新しい生活様式」における対面コミュニケーションの減少、孤独感の増加を解消すべく、オンラインイベントを学生と協働で実施し、学生同士の親近感の醸成を目指します。中高では、専門業者による定期的な学校内の消毒・清掃の実施、教室・食堂内のアクリル板の設置等、新型コロナ感染症対策を徹底します。また、課題学習や保護者・生徒との連絡におけるオンライン化も推進します。

5.長期計画策定

立正大学学園中長期計画検討委員会等においてRISSHO VISION 150立正大学学園第1次中期計画の進捗状況を踏まえ、また学園を取り巻く情勢や財務の見通しを勘案しながら、建学の精神にもとづく将来的なあるべき姿である長期計画を策定していきます。

6. データサイエンスセンターによる価値創造の推進

今年度設置するデータサイエンスセンターにおいて、全学におけるデータサイエンス（DS）に関連する研究の推進、DS 教育および IR 活動を支援していきます。研究面では、企業や地域と連携したプロジェクトの立ち上げを、教育面および IR に関しては、全学的な DS 教育の実施や DS の専門的知識を持った職員の育成に向けた FD・SD プログラムの開発を行っていきます。

Ⅲ.主たる事業

重点 当年度重点施策関連事業

中期 中期計画関連事業

<大学>

教育改革の推進

英語力向上のための支援体制構築とプログラムの開発		重点	中期
目的	実践的な英語力向上のための分析と支援体制の構築、効果的な英語プログラムの開発・運営		
当年度達成目標	英語力の分析および支援体制の検討		

サーバーとシステム環境の整備およびWi-Fi ネット環境の増強		重点
目的	対面授業とオンライン授業の併用にともなうシステム等の環境整備	
当年度達成目標	サーバーおよびシステム環境の整備	

オンライン授業の支援と環境整備		重点
目的	コロナ禍で導入したオンライン授業において、教材作成支援およびFD研修会等の実施によりオンライン授業における質を保証する	
当年度達成目標	教材作成支援、講習会およびFD研修会実施、録画用機材等の整備	

教育の質向上	
目的	多様な教育方法の導入に向けた授業時間の柔軟化
当年度達成目標	最適な授業時間および学事暦の設計

新 LMS (学習管理システム) の導入		重点
目的	オンライン授業における教材提示や、対面・オンラインに限らず課題提出管理を行うとともに学修成果を可視化するためのシステムの構築	
当年度 達成目標	システムに必要な機能の検討と導入システムの選定、システム設計	

高大接続教育の充実		中期
目的	入学教育プログラムの推進、特別聴講プログラムの充実、高大接続教育プログラムの共同開発など	
当年度 達成目標	入学前教育プログラムの実施及び推進、特別聴講プログラムの実施及び推進、高大接続教育プログラムの共同開発を行う	

学修支援の充実

学修支援機能としての図書館の利用促進（りるさぼオンライン化）		
目的	少人数・日時選択制の講習会である「りるさぼ」という本学図書館の学修支援機能を知り、図書館を効率的・効果的に活用してもらうために、「りるさぼ」のオンライン化を図る	
当年度 達成目標	オンライン形式で「りるさぼ」を実施する	

図書館主催・大学院文学研究科共催による貴重資料紹介イベント		
目的	本学所蔵の貴重資料を紹介することで、本学所蔵の資料に関する研究への活用を促す	
当年度 達成目標	図書館・大学院文学研究科共催で、オンラインによる貴重資料紹介のイベントを実施する	

その他の教育関連事業

認可時に付された附帯事項の確実な履行 重点	
目的	認可時の計画を確実に履行し、開設時から充実した教育研究活動を行い、その水準を一層向上させる
当年度達成目標	<p>遵守事項の項目を確実に履行できるよう以下の対策を講ずる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モラルや倫理に関連するプライバシーについて学ぶ機会を確保 2. 学生個人の能力に応じた少人数クラス編成によるリメディアル教育を導入 3. 教育課程外のリメディアル教育として学生に十分配慮した対策を講じる 4. 完成年度に向け、附帯事項の確実な履行のため適切な履修内容となっているか再確認しシラバスとの整合性を図る 5. 完成年度に向け、更なる学生スペースの確保や学生の卒業研究のための情報機器の整備等、施設・設備の活用や導入策を講じる

データサイエンス学部と連携企業・組織との共同研究・インターンシップの推進 重点	
目的	公的統計、民間統計、地域団体、民間企業との連携協力により提供・獲得された経済・ビジネス分野でのデータを用いた実践的な応用を模索する研究を推進していくために、地域団体や民間企業から研究面・教育面の連携を構築する
当年度達成目標	中期計画と整合性を図りながら、各種の教育・研究基盤構築・整備を進め、連携企業・組織との長期的な関係を構築するため、開設年度は10社以上の企業・組織と連携する

研究推進

産学共同・学内共同研究の推進 中期	
目的	研究シーズの把握および効果的なPRと研究コーディネーターの育成・配置、共同研究助成制度の構築
当年度達成目標	研究シーズ集の作成・公開、産学連携コーディネーターによるマッチングの実施および産学連携受け入れ制度の検討

競争的資金の獲得		中期
目的	競争的資金の新規採択率の向上および大型科学研究費等の獲得促進のための対策と獲得後の支援強化	
当年度達成目標	若手研究者向け支援制度の検討・導入	

キャリア支援の充実

キャリア形成支援 インターンシップを通じた教育的効果の測定		
目的	新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、非接触型の事前・事後授業及び就業体験を1つの授業科目として体系的に運営することで、学生の社会的・職業的自立に向けた業種理解・仕事理解の機会を確保および能力の伸長を図る	
当年度達成目標	就業体験前後の教育的効果を測定する仕組みの整備	

学生生活支援の充実

新生活様式下の学生生活サポート 学生部窓口業務のオンライン化ならびに各種ガイダンス等のチュートリアル映像のアーカイブ化		重点
目的	対面が難しいコロナ禍でも必要な学生サービスを提供する	
当年度達成目標	学生部窓口業務のオンライン化対応出来ていないものをオンライン化し、併せて、学生部各種ガイダンス等チュートリアル映像のアーカイブ化を進める	

新生活様式下の学生生活サポート 学生との協働によるオンラインコミュニティイベントの実施		重点
目的	対面が難しいコロナ禍における学生間のコミュニケーションをサポートする	
当年度達成目標	オンラインを活用した会議等を活用し、学生との協働によるコミュニティイベントについて検討し、実施する	

国際交流支援の充実

立正大学英語スピーチコンテスト	
目的	本学学生の英語への関心とグローバル意識を高める
当年度 達成目標	英語スピーチコンテスト大学の部・高校の部を開催 応募者数 50 名（出場者は大学の部 8 名、高校の部 8 名を予定）

産官学連携事業の推進

データサイエンスセンターによる価値創造の推進		重点
目的	DS 研究による社会的な価値創造の実現、先端的な DS 教育手法に関する情報共有を通じた全学的な DS 教育の質向上、DS を活用した IR 支援	
当年度 達成目標	研究シーズ集の作成・公開、産学連携受入れのための制度策定、企業を対象としたデータサイエンスセンター設立趣旨説明会の開催、DS 教育の手法に関する勉強会や講演会等の実施、IR 部門における集計・分析業務支援	

地域・社会貢献活動の拡充

くずし字（変体仮名）読解の通信制講座（2 コース）開催	
目的	江戸時代の和本を中心に 4 万 5 千冊所蔵する専門図書館である立正大学古書資料館の存在と和本の魅力を知ってもらうために所蔵資料・研究成果を学内外に幅広く広報する
当年度 達成目標	通信添削を含む 2 コースの公開講座計 10 回の実施

＜付属中高＞

行学二道

「行学二道」とは、修行と修学の二つの道を指します。立正大学付属立正中学校・高等学校では、学校や社会で学んだ知識や経験(学)を、行動で示すこと(行)のできる生徒を育てることを柱とした教育を行っています。「学びを行動で示す行学二道」を実践し、社会で求められる人材として積極性と改革の勇気を育んでもらいたいと願っています。

教育

国際化する社会に向けた英語教育の充実のため、外部英語検定試験のスコアアップおよび「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指した教育を実施します。「英語で意見や意思を伝える」コミュニケーション力を身に着けるため、1グループ10人程度の少人数授業にも力を入れていきます。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い昨年度はすべて中止せざるを得なかった語学研修は、今年度は米国への短期留学、および福島県のブリティッシュヒルズでの English Camp を実施します。

感染症予防の観点から急遽実施した昨年度のオンライン授業の経験も踏まえ、近年教育効果の向上を目的として実施してきた ICT 化については、今年度は更なる推進を行います。特に中学1年生には1人1台タブレットを購入し、授業では双方向型・対話型のアクティブラーニングを実施します。また、家庭学習との連携を図るためオンデマンド型での宿題の配信・提出を行うなど学習活動の更なる充実を図ります。また、再度休校になった場合でもオンラインでの学習活動が効果的に実施できるようにしていきます。

オンライン授業の検証と教育法開発

重点
中期

目的	校内での電子機器による教育環境が整った中でさらに学力・思考力・表現力を向上させるための教育をする
当年度 達成目標	ICT 教育を利用した教育法開発により学力を向上させ、難関大学合格者を現在の約30名から倍増の60名に増やす。また生徒一人ひとりが希望する進路決定までの教育指導法の向上を検討する

生徒支援

保護者・生徒と担任間の連絡をオンライン化しながら、家庭と学校との連携を密にし、新生活様式下での生徒の不安解消を目指していきます。

今年度も感染症対策として、校内での毎日の消毒・清掃作業、検温、アクリル板使用での食事指導の徹底を継続いたします。保健所・学校医との連携を図り、適切な指導のもと、健康で安全な学校生活が送れるようサポートしていきます。

さらに、自転車通学も範囲を広げ、中学1年生からの利用を許可することで、近隣の中学生が通学しやすいように変更いたします。

新生活様式下の学生生活サポート		重点
目的	新型コロナウイルス感染症対策を徹底させ、健康で安全な学校生活が送れるようにサポートする	
当年度達成目標	感染防止のため、専門業者による消毒および教室・職員室・食堂内のアクリル板の設置	

生徒募集

中学12回、高校6回の入試説明会、オープンスクールや入試問題解説会、および文化祭や体育祭でも入試相談ブースを設置することで、本校の教育内容や特色の周知と受験生へのPRを行います。

都区内に限らず横浜・川崎・千葉方面でも外部での説明会を行い、積極的な募集活動を実施いたします。加えて、雑誌等への広告掲載や駅内の広告看板設置、および大手学習塾や個人学習塾にも広げた募集活動を実施します。

これらの多角的な募集活動を継続的に展開することで「立正中学・高等学校」の知名度を上げていきます。

地域・保護者連携

馬込キャンパスも移転9年目を迎え、地域の方もあたたかく「立正」を受け入れてくださるようになりました。これまで近隣の幼稚園・保育園の発表会やバザー、馬込地区小学校の交流大会への施設貸与を通し、地域との交流を深めてきました。この結果、近隣の小中学校からの入学者も増え、今後もさらに多くの受験生が見込まれています。

今後も、品川区水泳連盟や大田区ホッケー協会、大田区サッカー連盟等とも定期的な施設貸与を通し、地域との関係を深めていきます。

< 基盤 >

キャンパスマスタープランの推進

強化クラブ合宿所耐震補強工事実施		中期
目的	立正大学の全キャンパスを対象とした耐震化率 100%（令和 5 年度中完了予定）に向けた工事の実施	
当年度 達成目標	基本実施設計の完了とラグビー部合宿所耐震補強工事施工を年度内に完了する	

組織運営

新たな研修体系の策定、実施		中期
目的	第 1 次中期計画アクションプラン『I03 改革人材作り、人事制度改革』『S08 社会マインド人材養成研修プログラムの開発、実施』の達成	
当年度 達成目標	現行の研修制度を見直し、新たな規程を制定した上で教職員対象研修を実施する	

150 周年記念事業勧募活動の推進		中期
目的	150 周年に向けた寄付勧募活動を行い教育・研究環境・施設設備等の充実化さらには同窓生の帰属意識を高め、恒常的な寄付基盤を構築する	
当年度 達成目標	募金促進のための趣意書配付の実施、および重点的に関東圏内の日蓮宗寺院へ勧募依頼を実施する	

内部質保証

内部質保証システムの有効性向上 直近の認証評価結果への対応	
目的	改善報告書検討結果（2019 年 5 月受領）で指摘された事項の改善
当年度 達成目標	2020 年度現在改善が完了していない文学研究科修士課程、地球環境科学研究科博士前期課程、地球環境科学研究科博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率を改善する

経営

長期計画（ビジョン）の策定		重点	中期
目的	長期計画および第2次中期計画の策定		
当年度 達成目標	長期計画の策定および、これを反映した第2次中期計画策定の着手		

立正エンタープライズ新事業		中期
目的	新たな事業拡充をはかり、収益の増加を目指すことによる収入の多角化の実現	
当年度 達成目標	財務担当常任理事のもとプロジェクトチームを発足し、現状の問題点や他大学事業会社の事例を踏まえ、エンタープライズの組織や新規事業を役員会に上程する	

財務

[予算編成方針]

学園の財政状況は、恒常的に本業の教育活動収支差額がマイナスとなっており、今後数年間のシミュレーションにおいても、継続してその傾向が続く見通しです。この厳しい財政状況に対応するため、マイナスシーリング予算を通じて冗費の削減だけでなく、多額の支出を伴う事業については、契約段階から再考するなど、教職員が一丸となって財政の健全化に向けて努力しています。令和 3 年度は以下の基本方針を掲げ、より一層の経費削減を目指します。

[基本方針]

- (1) 事務部門については令和元年度当初予算額（臨時的な予算額を除く）のマイナス 10%で予算要求し、そこからさらに踏み込んだ削減を目指す。
- (2) 学部予算については、令和 2 年度学部予算総額のマイナス 5%を前年度 10 月 1 日現在の学生数で按分した金額とする。
- (3) 以下については特別予算として位置づけ、予算の必要性を審議のうえ配分する。
 - ・ 学長政策費
 - ・ 学園ブランディング戦略予算費
 - ・ 予備費（自然災害等に伴う修繕や突発的且つ重大な事案等で、予算概算要求段階では予測不可能と認識されるもの）

[予算編成の前提：収入予算と支出予算]

- (1) 大学・中高の令和 3 年度学費については据え置き、学生生徒数は定員管理を確実に実行する。
- (2) 寄付金については、令和 4 年度に迎える開校 150 周年の記念事業募金として、卒業生・在校生・教職員に対して広く募っていく。
- (3) その他の収入については、財源確保のため経常的な補助金の確保と競争的資金等外部資金の継続的な獲得、資産運用及び施設の外部貸出しなどの多様な増収策に努める。
- (4) 既存予算の中で、資金計画が立っていない事業そのものの見直しや、予算に対して決算の執行率が低い事業について、抜本的な見直しを行う。また、業者選定・価格決定プロセスの厳正化によるコスト削減を行うと伴に、必要性や優先順位、仕様の妥当性についても改めて検証する。
- (5) 教職員の人件費については、学園諸機関における中長期の人事政策に基づいて決定する。



学校法人 立正大学学園 令和3（2021）年度事業計画書

（問合せ先） 学長室 総合経営企画課 03(3492)6872

※学園 HP から PDF 形式にてご覧いただけます。

ホーム > 学校法人立正大学学園 > 立正大学学園の概要 > 事業計画と事業報告 > 事業計画

http://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/plan_report/business_plan.html

令和3（2021）年3月24日 理事会承認（令和3年4月発行）